

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100427
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホーム ゆうかの里
所在地	松山市北条辻9 2 2 番地3
自己評価作成日	平成23年10月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との係わり合いを大切にすして、利用者一人ひとりの個性を大切にすその人らしい生活が送れ家族的な雰囲気の暮らしが出来るように努めている。又、寝たきりにせず安心して暮らせるように努力する。
職員は、外部研修に積極的に参加し、質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年度、事業所は車を購入されたことで、外出の機会が増えている。道後の足湯・道の駅、神社、公園、本屋、図書館等、職員からの提案されたり、利用者と相談しながら出かけておられる。利用者からの希望に応じて、電気かみそりや洋服等の買い物にも出かけやすくなったようだ。「どこでも行きたい」と言われる利用者もあり、今後は、ご本人の希望を探ったり、季節を楽しめる場所への外出する機会をさらに増やしていきたいと考えておられた。
会議に、警察署長の参加を得た際には「利用者の徘徊時の対応方法」について話していただいたり、事業所の取り組みについても意見やアドバイスをいただいた。「誰でも探せるように利用者の写真を準備しておくこと」というアドバイスを受け、事業所ではさっそく介護記録に利用者の写真を挟んでおられた。区長や民生委員の方からは、地域の清掃活動等の地域行事や活動についての情報を教えてもらっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ゆうかの里

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 砂古 正子

評価完了日 平成23年 10月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 日常及び職員会議等にて法人代表が、グループホームの 方針や目標・理念を説明して、職員全員が共有して利用者 の支援行動に活かされている。	
			(外部評価) 法人代表者は、「愛」を目標にされており、「人間愛」「無償の 愛」について、職員会議時等に話していきたいと考えておら れる。事業所の理念の一つに、「本当に安心できる家庭的な グループホームを目指します」と掲げておられ、利用者が 「本当に安心できる」ように、医療連携や利用者の状態把握 へ取り組みをすすめているところである。管理者は、職員一 人ひとりが「意識改革・法令順守」に努め、「プロ意識」を持っ て取り組んでほしいと話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 小中学校の下校時間帯に事業所前のベンチに座り挨拶を 交わしたり声掛けをしている。また、福祉体験学習で中学生 が福祉体験をしたり、尺八や踊りの地域ボランティアの方が 来てくださったり地域との交流も積極的に行っている。地方 祭では、事業所の前に神輿が来てくれて、利用者や職員は みこしと一緒に写真撮影を行った。	
			(外部評価) 事業所でボランティアの方がフラダンスを披露してくださった 際には、皆で楽しまれ、手の動きを真似てみる利用者もみら れたようだ。ボランティアの方は、ダンスの後はお茶を飲みな がら利用者とお話して帰られる。中学生が福祉体験学習に 来られた際、一緒に海岸を散歩された。普段は口数が少な い利用者の方が、生徒とお話するような場面もみられたようだ。 近隣の理容室の方が2ヶ月に1回来て、利用者の散髪をして くださっている。散髪を済ませると利用者は、「かっこよくなっ た。綺麗になった。」とよこばれるようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地元中学生の実習を受け入れたり、運営推進会議などホーム を訪れた地域の人に支援の方法等を話し合いを通じて認 知症への理解を深めていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議時には、法人代表及び司会者から地域住民や地域包括支援センター、家族代表の方や松山市役所職員に対して、利用者の状況報告した、アドバイスや助言を頂きサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議に、警察署長の参加を得た際には「利用者の徘徊時の対応方法」について話していただいたり、事業所の取り組みについても意見やアドバイスをいただいた。「誰でも探せるように利用者の写真を準備しておくこと」というアドバイスを受け、事業所ではさっそく介護記録に利用者の写真を挟んでおられた。区長や民生委員の方からは、地域の清掃活動等の地域行事や活動についての情報を教えてもらっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市役所担当から定期的に内部を見学してもらい、助言やアドバイスを頂いている。また、法人代表や管理者、職員や利用者にも話しをしていただき今生じている問題点等を見つけ一緒に改善していこうと取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、事業所が困っていること等を相談して、一緒に考えたり、助言を得ながら取り組みをすすめておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会をしたり職員会等で職員の理解を深めている。夜間のみ施錠を行っているが、日中は施錠を行っておらず、外に出たいと希望する利用者には、職員が同行して出かけるなどしている。</p> <p>(外部評価) ユニットのリーダーが中心となって、身体拘束や虐待について事業所内で勉強会を行っておられる。頻回に外に出ようとする利用者の方への対応については、運営推進会議で話し合ったり、職員で相談して1階から2階ユニットへと、ご本人の生活の拠点を移した事例がある。職員の見守りや声かけにより、ご本人が拘束感のないように気を付けるようにされているが、今後さらに、利用者の安全で自由な暮らしを支援できるよう、職員の取り組みの工夫が期待される。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	高齢者虐待防止法等についての勉強会を行ったり外部研修に積極的に参加してもらい職員間で話し合いをして、虐待防止に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	権利擁護について十分職員が理解できていない為、勉強会の機会を作ったがまだ不十分である。具体例や資料等を集め理解できるように努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約書を読み上げながら丁寧に説明を行い、利用者や家族の疑問や不安等がないか一つ一つ確認しながら契約をしている。また、契約が終わってからも疑問等が出た場合には、問い合わせをして頂くようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	意見要望については、管理者が窓口となって聞き入れている。また、家族が他の職員に意見要望を言われたときにも管理者に報告している。要望や意見についても職員と管理者は話し合いの場を設け出きるだけ対応できるように努めている。又、直接いいにくい方の為に意見箱を設置している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>職員会議には職員に対して意見を募り、対応している。また、職員より直接代表者へ意見要望を言われるときもあり出きるだけ対応できるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月の職員会議には、法人代表者も参加され、職員の話聞いておられる。職員は、「嚙下機能について」「虐待について」等の外部研修に参加されている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>キャリアパス制度を導入しており働きやすい環境整備を行い、仕事にやりがいを感じられるように改善している。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>外部研修参加者は、研修報告書を作成し、その報告を職員会議時に発表し全職員共有し研修している。また、法人内で勉強会を実施するなどの取り組みもしている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>松山市北条サービス調整会議や松山司法上介護支援専門員連絡会議、松山司法上地域密着型サービス連絡会議に参加しており、他事業者との交流や勉強会の機会を持つようにしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時、ケアマネが本人及び家族と話をし入所前の状況や、間近の生活サマリーを活用して、本人が新しい場所で不安にむならないようコミュニケーションを取っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居相談時から家族と話し、困っていることや不安なこと、要望を聞き対応できるようにケア担当を配置し、職員も家族との関係を築いている。それらのことをアセスメントに反映している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所初期は、不慣れな点が多く不安を感じやすい為、本人・家族と話し合い、介護度や支援を必要としていることを把握し、ケアプランを作成している。そして入所生活後、モリタリングを行い対応しているように努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一緒に過ごしながらか喜怒哀楽をともにし少しの時間でもコミュニケーションをとり一つ屋根の下で生活を共にしていることを常に意識して業務に当たっている。また、暮らしをする上で支えあう良い関係を築けるように努めている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>出来る限り家族の協力を得ながら利用者を支えていけるように努めている。面会に来られたときなどに様子を伝えたり、次も来て下さる様に声掛けをし、家族との絆も大切に努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>以前の近所の方や兄弟等が訪れやすい雰囲気作りをして面会しやすい環境を作っている。また、お墓参り等に行きたいといった希望があった場合は行くようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族と一緒に通院されたり、外食される方もいる。言葉数が少なく、ふさがちな利用者もいるが、「墓参りに出かけてみてはどうか」という職員からの提案をきっかけに、利用者とは相談して出かけてみられた。お墓に近づくと、利用者が目印の建物や駐車場の場所等を教えてくださり、お墓の前では涙してよろこばれたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが孤立しないように職員が中に入り声掛けをし、水分補給や食事時にはホールに誘導し、その方のペースに合わせて臨床時間を考慮している。また、ホールに出てきた際はコミュニケーション作りに励み係わり合い・支え合えができるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了してもご家族の相談・要望を聞き、支援を行っている。退所後、家族が不安に思っていることを職員に聞いてもらうなど施設で行っていた介護等も伝えるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向は日常ケアにおいて本人の言葉やサインを察し、把握に努めている。また、本人の意向把握が困難な場合は生活暦から本人本位に行えるように支援し快適に過ごすことが出来るように努めている。	
			(外部評価) 管理者は、日々利用者にかかわる職員から、利用者個々の様子や状態、言葉や希望等の報告を受け、記録されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から今までの暮らし方、生活環境をしっかりと聞きフェイスシートを作成し把握に努めている。また、日常のケアの中で昔の話を伺ったりして情報収集を行えるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック・日常生活の記録の徹底を行い個々の現状把握に努めている。申し送りもしっかり行い職員全員が一人ひとりの心身状態など把握できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人、家族、職員などに意見を求め話し合いをし介護計画を立てている。計画は、3ヶ月毎、6ヶ月毎と本人の状態等に応じて見直しを行う期間を決めており、モニタリングは、職員が毎日記録している介護記録にもとづいて、ケアマネージャーが行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに行い、状態変化時には随時見直すようになっている。毎月の月末には、支援内容の「中間評価」を行い計画をモニタリングされている。体位変換が必要な利用者には、チェック表を作成して、時間ごとに必ず行えるような仕組みを作っておられる。管理者は、記録の様式について見直している途中で、利用者の現状が分かりやすい様式を模索されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ケアプランにあるサービス内容にとらわれず、本人の身体状況や生活状況を見て変更する必要があるれば柔軟に対応できるように努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>ケアプランにあるサービス内容にとらわれず、本人の身体状況や生活状況を見て変更する必要があるれば柔軟に対応できるように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>近所の公園へ散歩したり買い物等を通じて、地域の中で生活している意識を持っていただいている。また、今後も地域行事への参加をしていき地域での暮らしを楽しめるよう支援したい。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>近所の公園へ散歩したり買い物等を通じて、地域の中で生活している意識を持っていただいている。また、今後も地域行事への参加をしていき地域での暮らしを楽しめるよう支援したい。</p>	
			(外部評価)	
			<p>近所の公園へ散歩したり買い物等を通じて、地域の中で生活している意識を持っていただいている。また、今後も地域行事への参加をしていき地域での暮らしを楽しめるよう支援したい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医との連携は密にとっており、異常時又は緊急時などがあればすぐに連絡が出来る体制をとっている。	
			(外部評価) 医療との連携が密に図れるよう、協力医を変更され、24時間いつでも相談したり対応していただけるような体制作りに取り組みました。又、週に1回、訪問看護事業所の看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくださっている。心療内科の往診を受けている方もいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 済生会松山訪問看護ステーションと契約している。訪問した時に職員が個々の利用者状態の報告をし、看護ケアについて指導してもらっている。また、異常時、緊急時等は、すぐに連絡が出来る体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、情報提供書を作成し状況提供を行い、分からない事等は相談できるようにケアマネが対応している。また、入院時退院予定日が分かれば医師の指示を受け長期入院が必要でなければ部屋も確保している。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の傾向があるときは、早急に家族と相談して、今後の方針を話し合うようにしている。	
			(外部評価) 事業所の看取りの方針についても、内容の見直しを検討しているところである。看取りについては、外部研修を受講されたり、研修時の資料を職員で回覧して知識の共有に努められる。 利用者が最期まで自分らしく過ごせるような支援ができるよう、利用者やご家族の希望の把握に取り組んでいかれてほしい。又、利用者個々の家庭環境等も踏まえて、それぞれの事情に対応できるよう検討されて、チームで利用者を支えていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や事故発生時は、速やかに管理者の報告相談し、看護師と連携し対応を行うようになっている。また、随時職員間で勉強会や話し合いの中で急変時について話し合い実践に生かせるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会の時、消防の方に日中・夜間に火災が起きた場合等の対応についての講話をしていただいた。防災訓練は、近日中に実施予定としている。緊急連絡簿を掲示し、すぐに対応できるように努めている。	管理者は、今後、夜間を想定した避難訓練の実施や、さらに、2階ユニットから利用者を避難させる方法についても検討していきたいと考えておられた。2階ユニットは、避難経路が外階段のみということもあり、今後も避難訓練を繰り返し行い、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけていくことが求められる。又、事業所の立地条件等も踏まえて、災害時の地域との協力体制作りにも取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 「火災予防チェックリスト」を作成して、「火のそばを離れない・タバコは吸わない・コンセントの掃除をする」等の項目に沿ってチェックするようになっている。運営推進会議時には、消防署の方が3名来てくださり、防火や避難訓練についてアドバイスをいただいた。又、今後も気軽に相談等ができるような関係作りにも努められた。今後、防災責任管理者を2名確保できるように職員に講習受講をすすめたり、区長や民生委員の方にも避難訓練に参加いただけるよう声をかけていきたいと考えておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会を通じて、日常のケアや話し合いの中で、職員相互に人格の尊重について考え、声掛けのときなど相手の誇りを傷つけないようにしている。	
			(外部評価) トイレの声かけは、ご本人の近くで声をかけるようにされている。利用者の希望で洗濯物をご自分で干したり、たたんだりできるよう支援している方もいる。今後、発行を予定されている事業所便りについて写真を載せる場合は、「ご家族に了承を得る」ようにしたいと話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者と一緒に話をする時間をもち声掛けの仕方の工夫で自己決定が出来るように努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事・入浴等の日常ケアはその方のペースに合わせて提供 できるように努めている	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きおしゃれを楽しみたい女性にはしていただ き、その方の生活暦を踏まえて、好みの身だしなみが出来 るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理に関して利用者が係ることはほぼないが、配膳や後片 付け等で利用者が出来る範囲お手伝いはしてもらっている。 (外部評価) 食事は、でき上がったものが業者から届くようになっている。 職員は毎食、利用者に食事の感想を聞き、業者に意見を出 すようにされている。利用者の希望で居室で食事をする方も いる。利用者の状態に応じて食材を細かくしたり、ミキサー食 に調理されている。誕生会には、利用者の希望で職員がち らし寿司を作る等してお祝いされている。調査訪問時、食事 前には口腔体操や「結んで開いて」の音楽に合わせて体操を されていた。	職員は、誕生会等、「特別の日のメニューを充実させたい」と 話しておられた。利用者主体の生活を支援するグループ ホームの食事支援について、工夫できることがないか職員で 話し合ってみてほしい。食事作り一連の流れの中で、利用者 の持っている力を発揮できるような場面を作っていかれてほ しい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養や献立についてはきちんと計算されて作られている。ま た、一人ひとりの身体状況に合わせて食事が提供されてい る。また、毎日食事摂取量や水分量を記録し、把握すること で一日の必要量を確保し、毎日健康に過ごせるように支援し ている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方には、声掛けを行い歯磨きをしていただくよ うにしている。自分でする事が困難な方は職員が介助して口 腔ケアを行ったりし、食欲増進や感染予防等に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 毎日排泄時間等を記録し、排泄パターンを把握してトイレ誘導し失禁の減少に努めている。オムツを使用している方に関するだけでも出きるだけトイレに座っていただき排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
			(外部評価) おむつを使用した状態で入居された利用者もいるが、職員はトイレへの声かけや誘導して支援し、トイレで排泄できるようになった方もあり、現在は、布パンツで過ごしておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量の把握を行い飲食物を便通に良いものにするなどを工夫を行っている。また、運動の実施の声掛けをしたり腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には曜日で決まっているが、要望があったり、必要があれば随時入浴は実施している。	
			(外部評価) 週3回は入浴できるよう支援されており、利用者の希望も聞きながら回数を増やしたり時間を決めておられる。入浴を嫌がる利用者には、時間をおいてから声をかけるようにされている。入浴用の車椅子を使用して、シャワー浴をされたり、介護度が重度の利用者の方には、体の負担を考えて半身浴を支援されている。安全のために浴槽の中には滑り止めマットを敷いておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないようなるべく昼間は起きていただくようにしているが、原則その方のペースに合わせて休息が取れるように努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効力・副作用を把握して誤薬が起こらないように職員が丁寧に確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方らしい生活が送れることが実現できるように支援している。また、生活暦や本人との会話の中で希望等を聞き気分転換等が出来るように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に車や徒歩で近所のお店に買い物に行ったり、公園に行くように支援している。また、季節に応じた外出も計画を立てて支援していく予定をたてて実行している。家族の協力を得てお墓参りなど希望の沿った支援を行えるように支援している。	
			(外部評価) 今年度、事業所は車を購入されたことで、外出の機会が増えている。道後の足湯・道の駅、神社、公園、本屋、図書館等、職員からの提案されたり、利用者と相談しながら出かけておられる。利用者からの希望に応じて、電気かみそりや洋服等の買い物にも出かけやすくなったようだ。「どこでも行きたい」と言われる利用者もあり、今後は、ご本人の希望を探ったり、季節を楽しめる場所への外出する機会をさらに増やしていきたいと考えておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんから個人的に貰って所持している利用者については、買い物時に利用されている。また、その使用時に職員も同行して使い方の良い方法などをアドバイスしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の要望があれば職員が必要な支援を行い、手紙など要望があるときは支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある室内飾りを行うようにしている。ホールのテレビは利用者が好みでつけていることが多く食事中は、音楽をかけ、食事に集中できるように工夫している。利用者が閉塞感を感じるのではないかと意見などもあり食事を除く日中は、1階のカーテンも開けるようにして居心地よく過ごせるように努めている。	
			(外部評価) 調査訪問時、居間のテーブルには彼岸花が生けられていて、利用者の方は「かわいいね」と話題になっていた。廊下等は車椅子が通りやすいようにものを置かないようにされている。疥癬が発生したことを機に、毎日の清掃・布団干し、整理整頓を徹底して衛生的な環境作りに努めておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂とホールが兼用している為ひとりになれる空間の確保は困難であるが、利用者同士で交流が出来き居心地よく過ごせるような空間作りに努めている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や本人の昔の生活の慣れ親しみのもの・似顔絵やご自身で作った手芸等があれば持込んで頂き、本人が快適に生活できるように支援している。	
			(外部評価) 各居室入口には木製の表札をかけておられる。ベッドや筆筒は事業所で準備されており、利用者は衣装ケース等ご自分のものを使用されている。特に夏場は、居室の室温が上がりすぎないように気を付けておられ、職員は、温度計等をみながら調節されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 十分とはいえないが、安全に考慮し環境づくりを心がけている。物品の配置を日常的に検討して対応している。	